【京田辺市】

校務 DX 計画

１　趣旨

本市教育委員会では、GIGA　スクール構想の下、令和２年度から全ての小中学校において１人１台端末と高速大容量の通信ネットワークの構築、クラウドサービスの活用などの ICT 環境を整備し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成や探究的な学習活動の充実につとめてきました。また、教職員においても研修会への参加や保護者と学校をつなぐ連絡ツールの活用・ペーパーレス化などの業務改善を行ってきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。そのため、「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA　スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ教育委員会及び学校が教育 DX を推進する際に取り組むことが望ましい項目及び解決策について以下のとおりまとめ、更なる校務 DX に係る取組を進めることとします。

２　京田辺市における課題及び取組について

「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸ化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省　令和５年１１月実施）を踏まえ、京田辺市における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務ＤＸの推進を図っていく必要があります。

（１）　クラウドツールの一層の活用

業務の複雑化による教職員の業務負担が増加しており、負担を早急に軽減するため、まずは既存のクラウドツールの一層の活用を促進します。具体的には、欠席・遅刻・早退連絡や調査アンケートは多くの学校でツールを用いて行われていますが、お便りの配信については利用できていない学校が散見されるため、学校で実施が進むよう、研究・実践していきます。

また、クラウドツールを活用しての、児童生徒とのリアルタイムでの連絡、学習状況把握・評価についても依然効率化の余地が残る状況のため、調査・アンケートの実施や教職員間の情報共有を促進し、校務の効率化をさらに推進していきます。

（２）　ＦＡＸでのやり取り・押印の見直し

ＦＡＸの使用ならびに押印実施の現状について分析し、やむを得ない場合を除きＦＡＸを使用することがないよう周知・徹底していきます。

（３）　校務系・学習系ネットワークの調査・研究

校務系ネットワークと、学習系ネットワークは分離されており、セキュリティに関するルールも異なり、データ連携が簡単ではない状況なので、今後は、校務系ネットワークの学習系ネットワークへの統合を想定し、データ連携やセキュリティ対策について調査研究を進めます。